



オアシス

文責：学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2022年8月29日発行 第52号

夏も終わりに近づいていますが、気象予報士によりますと残暑が厳しくなることを伝えていました。夏の風物詩の一つに花火大会がありますが、今年は開催されるところが多いようです。私は、花火といえば線香花火が好きです。じーっと見つめていると、派手さはないですが、精一杯自分を表現しようとするけなげな姿が何とも言えないのです…。線香花火をこう表現している人がいました。火をつけるとまず「つぼみ」…。（「つぼみ」は幼年期。）次に「牡丹」のように広がり…。（「牡丹」は青年期。）やがて「松葉」のごとき細くなる…。（「松葉」は壮年期。）最後に「散り菊」のように終焉を迎える…。（「散り菊」は老年期。）この行程は、広大な宇宙空間の中で一筋の線香花火が自分の人生を表現している姿に映り、一瞬を生かされている気付きなどがロマンを感じさせてくれます。

◎ 聴くことの大切さ！

本アカデミーでは、じっくりと鑑賞する機会は多くないように思います。本アカデミーの母体である出雲フィルハーモニー交響楽団のコンサートなどでは、鑑賞講座として聴くことはあるにせよ、時間の制約もあり普段じっくりと鑑賞する機会は設けていないのが現状です。鑑賞するには、各自の生活の中で確保するしかありません。

本アカデミーには、ライブラリーがあることは承知のこととされます。CDは、約1000タイトルを寄贈していただいています。その後、中井芸術監督からも多くのCDを寄贈していただいています。これを活用しない手はないと思います。自由に貸し出しが出来る環境が整っているわけですから、いろいろな音楽に触れる機会にもなることと思います。

一方で、LPレコードも大量に所蔵しています。LPレコードは、CDの登場で一旦は影を潜めましたが、最近LPレコードの良さが見直されブームの再来傾向にあります。本アカデミーでも「LPレコード音楽サロン」が昨年度より事業化され、毎回来場される方も増えてきています。CDとレコードでは、手入れと取り扱いに大きな差があります。

2年前には、LPレコードの良さを伝えようと指導講師の皆さんにも聴いてもらったことがあります。当時は手入れ方法が未熟でパチパチとノイズ音だらけの状態のため、音楽を鑑賞するという雰囲気ではありませんでした。その後、手入れ用具も揃え、手入れを重ねることにより発売当時の音源がよみがえるようになりました。今では、レコード針の独特な音さえも感じなくなっています。そのようにレコードの環境が整ってくると、レコード盤の溝に素晴らしい音源が半世紀も前に録音されていたことに驚きと共に感動さえ覚えます。しかも、本アカデミーの所蔵品には、同じ曲目でも違うアーティストの盤があり、聴き比べが出来るのも楽しみの一つになっています。「LPレコード音楽サロン」で使用する盤を選ぶ時には、



裏面へ

手間暇がかかりますが、選定途中でそれぞれのアーティストの想いなどが伝わり、新しい発見につながることもあります。そうであれば聴かない手はなく、表現や解釈などの点でお手本を示して下さっている事であり、奏者として大いに参考になるのではと思うのは私だけでしょうか…。



先日、「第6回LPレコード音楽サロン」を大社文化プレイスうらら館の自主事業として、初めて環境の整った会場で実施いたしました。広い空間での心地良い響きは、音楽芸術の基本的要素であることが改めて理解できたように思います。会場の皆さんもホール開催の良さを感じ取られ、満足されている方が多かったように思います。また、レコードを再生する機器の役割が大きいことは言うまでもありませんが、今回もオーディオショップ・フクダ様のご協力で実施出来たことに感謝の言葉しか思い浮かびません…。

つぶやき

出雲芸術アカデミーは、音楽を演奏したり歌ったりするいわゆる活動を主体とする学びが中心の場です。個々の技術を磨く場もありますが、大勢で行う合奏や合唱も魅力的な活動として取り組んでいます。基本を学び一通りの演奏が可能となるころ、合奏や合唱で合わせることにより、音楽のより豊かな表現が可能となります。その成果を発表する機会がコンサートにつながり、聴く人々の心に響くようであれば演奏家冥利に尽きるのではないのでしょうか…？ 演奏者側の視点で見ると個人練習では各自が練習計画を組み、計画的に積み上げればよいのですが、合奏や合唱練習では個々の都合を合わせなければなりません。学校の部活動であれば都合を合わせることは、それほど労力を使うことはないでしょう。しかし、社会人の場合、本番前にならなければ集まらない現象はどこの団体でもよくあることです。本番までにきちんと各自の役割を果たして参加すればいいのかもしれませんが…。問題は、合奏（合唱）をすることの意義が理解できているかどうかで大きく違ってくると思われます。合わせるときに個々の勝手なタイミングで演奏されれば支離滅裂な音楽となることでしょう。指揮者（指導者）の意図を全員で確認していくことが合奏（合唱）練習することの大きな意味につながると思います。そうして創りあげられたコンサートは観衆の皆さんの心を驚掴みにすることでしょう…。

では、普段の練習を盛りあげたり参加率を増やすには、どうすればよいのでしょうか？ 自分もあるバンドの指導に出かけていますが、参加者が少ない時には、何のために来ているのか疑問に思うことがあります。社会人ですからそれぞれの都合はあるにせよ、合奏がある時には最大限努力する姿勢が大切だと思っています。そこで、合奏に参加する全員が指揮者の立場になってみてはどうでしょうか…。指揮者がいなければ合奏が出来ないわけですから、自分の不参加により他にどのような影響が出てくるのか考えていくことが大切のような気がします…。勿論、それぞれの都合があるのは当然のことであり、絶対というわけにはいかないことは承知していますが、お互いが理解し合える関係づくりをしなくてはいけないことに気が付かねばなりません…。

本アカデミーで行われる合奏・合唱でも参加率が低い講座があるとの声が聞こえてきます。関係者や参加者一人一人の意識改革が必要になっているのかもしれませんが…。